外報摘要

第三十五回

114
A 796
3

外報摘要第三十五回目次

一 故グラッドストーン氏

右

明治三十一年七月廿八日脱稿

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

英國一世ノ名雄ニシテ五世界当代ノ傑物タルウイリアムエワートグラッドストーン氏畧傳

ツトストーン氏ハ五月十九日齢九十一歳ヲ以テ遂ニ簀ヲハワーデンノ邸ニ易ヘリ、由来渠ハ自由平和及人道ノ木鐸ヲ以テ自ラ任シ、為メニ英国ノ光輝ヲ発揚シ世界ノ風紀ヲ啟導セシモノ蓋シ少小ニアラス、其訃音ニ接シ社會ヲ挙テ慟哭スルモノ豈所以ナシトセン、哉(イ)

其一、渠ノ出所

「渠ノ父ハジョン、グラッドストーントヱヒ、リバプールニ於ケル一豪商ニシテ又保守党ノ一名士タリ、氏妻ヲ娶ル前后二回其后ナルモノハ千八百年四月廿九日ノ配偶ニ係リ、名ヲアンネト称シ血統名流ニ出ツ、アンネ

四男二女ノリ長ハトーマストヽヒ千八百四年七月二十五日ヲ以テ生シ次ハロバートソントヽヒ同五年十一月十五日ヲ以テ生シ次ハジヨン、ネールソント称シ同七年一月十八日ヲ以テ誕生シ最後ハ即ち一リアム、エワートニシテ同九年十二月二十九日ヲ以テ出生セリ、又二女アリ一ヲアン、マツケンヂートヽヒ他ヲヘレン、ジエーントヽヒシカ共ニ婉スルニ至ラスシテ夭死セリ、而シテ長ハ法学博士ノ名誉ヲ得國会ニ席ヲ占メテ政治ニ斡旋シ、次ハ商業ニ身ヲ委シ曾テハリバプール市長トナリ又政治経済社会ニ立テ屢牛耳ヲ取リ、三ハ早ク海軍ニ入リテ士官トナリ夙ニ良材ノ名ヲ得シカ惜哉千八百六十三年二月三日ヲ以テ別ヲ兄弟ニ告ケリ

其二、渠ノ学校生活

渠幼ニシテ性、機敏敏達特ニ剛毅卓抜ノ氣アリ十二歳ニシテ英國名士ノ揺籃タルイートン学校ニ入リ茲ニ中学課程ニ螢雪ノ苦ヲ嘗ム実ニ六年、専ラ羅甸希臘語ヲ研究シ、天資ノ英邁更ニ一層ヲ加ヘ早クモ範ヲ同窓ニ示スニ至リヌ、後大学ニ轉シ後才益光発ヲ放シ或ハ討論ニ或ハ演説ニ或ハ雑誌ニ其意向能力ヲ表シテ餘スナク人ヲシテ轉タ未来ノ大宰相タルヲ想ハシムルモノアルニ至レリ、蓋シ渠カ德行品性ノ高キ識能才藝ノ非凡ナル天禀ノ賦性及家庭教育ノ然ラシメシ所ナルヘキモ、而モ渠ヲシテ愈奮達セシメタル所以ノモノハ当時ノ教授其人ノ力ト儕々タル同窓ノ刺激ニ由ラスンハアラシ、当年ノ大学ハ将来ニ於

ケル名士ノ淵叢ニシテアウサー、ヘンリー、ハラムアリ、ジョーヂ、アウガスタス、セルウインアリ、フランシス、ヘスチングス、ドウイルアリ、ウイリアム、マックウヲース、プレードアリ、皆後年斯道ノ傑出タル可キモノ、渠此中ニアッテ競爭練磨ス、玉光ヲ发セサラントスルモ豈得ンヤ、斯クシテ千八百三十一年優等ヲ以テ其業ヲ卒フ時ニ渠漸ク二十三歳

其三、渠ノ國會生活

千八百三十一年渠ノ業ヲ卒フルヤ直ニ政況視察トシテ歐洲漫遊ノ途ニ上レリ、而シテ翌年足ヲ伊太利ニ入レシ時、英國ハ偶議院法改正後初メテノ選挙ニシテ之カ改正ニ反對セシ保守党ハ新タニ精鋭ナル秀材ヲ擁シテ議員トシ其報復ヲ図ラントシテ新人物

撰擇中ニアリシヲ以テ渠ハ即ニューアーク區ノ候補ニ上ケラレニユーキャッソル侯ノ援助ヲ得テ首尾能ク当撰シ、千八百三十三年ノ新議會ヨリ議員トシテ出席セリ、再来千八百九十五年首相ヲ辞シ議院ヲ退キシマテ通シテ六十二年間渠ハ常ニ議院ニ席ヲ占メニキ、渠カ議員トシテ第一ニ該党員ニ发表セシ政見ハ千八百三十三年五月十七日ニ於ケル有名ナル演説ニシテ所謂西印度奴隷保護ニアリシ、以遥人心漸ク渠ニ注キ皆目スルニ英國政界ノ一明星ヲ以テセシニ、更ニ財政及制度改良意見等悉ク衆望ヲ援クノ政見ヲ发表セシカハ声名益加フルニ至レリ、特ニ千八百三十八年著述セシ「國家ト教會ノ関係」ノ如キ人口ニ膾炙スル頗

ル厚ク就中ヲックスフオード大学ノ驚喜シテ歓迎スル所タリキ、
然レトモ当時ノ渠ハ純然タル保守党員ニシテ其意見挙措全ク
茲ニ胚胎シ後年自由ノ木鐸ヲ以テ終ラントハ好シ先見家ヲ以
テスルモ思ヒ至ラサリシナリ、而モ時勢ハ駸々トシテ渠ニ教ヘ渠亦
之ニ乗スルノ敏ナル時世ト共ニ推移轉進シ遂ニ自由ノ衆斗トシ
テ名ヲ博シ畢ンス、
夫レ政治家トシテ重ンスヘキハ唯進退驅引ノ機宜ニ適スルニアリ、
然レトモ昱シ凡庸政客輩ノ企テ及ハサル所、渠ニ於テ始メテ得可シ、
千八百六十八年十二月首相ニ上リシ以来千八百九十五年ニ至ル
前後三回十数年ノ長キ尨大ノ英國民ヲ統御シ重キヲ内外ニ

ニ致セシ所以ノモノ蓋シ滂湃タル超群稀世ノ氣宇アルニ由レリ

其四、渠ノ官吏生活

先昱渠ノ議會ニアルヤ其用ユヘキノ材能ハ先輩ロバート、ピール
ノ認ムル所トナリ、千八百三十四年十二月二十六日ピール立テ内閣
ヲ組織スルニ当リ擢テラレテ大藏理事官トナリ翌年殖民次官ニ
進ミシカ、同年愛蘭土教会問題ノ為メピール内閣倒ルヽヤ渠亦
職ヲ退ケリ、其後七年即千八百四十一年八月三十日ピール再ヒ出
テ、内閣ヲ組織スルヤ渠亦職ヲ商務局次長ニ奉シ造幣局長
商務局長等ヲ経テ殖民大臣ニ累進シ内閣ニ列スルニ至レリ、而
シテ此間渠カピールニ得タル所多キハ論ヲ俟タサルト共ニピール

ヲ益セシモノ又尠ナカラシ、例セハ穀法廃止及自由貿易問題
處理ニ際シ党ノ驍将ヂスレリー等多数ノ強抗アルニ係ハラス、ピ
ールヲシテ之ヲ断行セシメ以テ英國ノ財政ヲ改刷セシハコブデン、
ブライト諸氏ノ苦諫ニ由ルトエフト雖モ、畢竟渠カ内ニアッテピール
ヲ鼓舞奨勵セシニ依ル如キ則是レナリ、其後ピール没スルニ迨ヒ
ヂスレリー等漸ク勢力ヲ得来タ内閣ヲ組織スルニ至ラサリシモ其
權勢ノ波及スル所慥ニ渠ヲ凌クモノアリ、從テ渠ハ失意ノ域ニ沈
溺セシカ、圖ラサリキ是レ渠カ為メニ捲土重来ノ勇ヲ鼓スルニ至ル
ノ興奮劑タラントハ、則渠ハ此頃ヨリ自由党ニ轉化シ徐ロニ人
心收攬ニカメシカ、労空シカラス千八百六十八年ニ至リヂスレリー

内閣ニ代リ始メテ内閣ヲ組織シヌ、爾来職ニ在ル前後合シテ
十年餘其在職中内外事件ヲ通シテ功蹟ヲ遺セシモノ今更数フ
ルニ遑アラシ
渠ヲ政治家特ニ大宰相トシテ吾人ノ龍英敬スルハ剛毅ニシテ断行
カニ富ムニアリ、一度決スル所徹セスンハ止マサルノ勇ニアリ、愛國
土地條例教育條例乃至ハ軍隊編成條例ヲ編成セシ如キ、或ハ
セルビア及バルガリア事件ニ單身干渉セシ如キ、近クハパネルノ愛
國自治案ヲ賛助セシ如キ、彼時論ニ阿媚ル通当ノ政治家ノ得テ為スヘキ
ノ業ナランヤ、渠ノ偉人タル蓋シ這般ニ存セシ乎
其五、渠ノ性格及家族

渠ノ容貌ハ秀麗ニシテ寧ロ優美其態度ハ瀟洒ニシテ頗ル快活共ニ人意ヲ迎フルニ適セリ、人ニ接シテ城府ヲ設ケス恬淡トシテ能ク語ル、而モ容易ニ人ニ許サシ、然レトモ内外等シク渠ノ引見ヲ待ツ恰モ水ノ低キニ就クカ如シ、亦以テ其ノ敬慕ヲ受クルノ深キヲ知ルヘシ

渠ニ四男三女アリ男ノ長ナルモノハダブリユーエッチニシテ千八百八十年東ウヨルミエスターシャイアヨリ撰マレテ議員トナリ、次ハスチーブンエドワードニシテハローデンノ「レクトル」タリ、三ハヘンリーネビールニシテグ家商業上ノ名誉ヲ維持シ、最後ハバーバートジョーンニシテ「リーヅ」(Leeds)ノ会員タリ、女ノ長ナルモノハアグネト

云ヒ夙ニリンコルン校ノ教頭ウイクハムニ配シ、次ハメリー及ヘレントニ共ニ健全グ家ノ名誉ヲ完フセリ」(12)

其六、渠ノ國葬

「國葬ノ本義ハ國家カ國士ヲ待ツニ存スル以上ハ國家ノ渠ヲ送ルニ此儀礼ヲ以テスル亦固ヨリ妥当ナリト雖モ、而モ上下一致翕然トシテ意ヲ茲ニ致セシモノ僅ニ故パルマストン及渠アルノミ、衆庶ハ渠ノ物故ト共ニ國葬ヲ絶叫シ官吏トナク議員トナク等シク之ヲ唱導セリ、廿日ヲ以テ上院ニアッテハソールスベリー卿之カ動議ヲ提出シキンバーレイ卿デブオンシヤイア公ローズベリー卿等ヲ始メ衆員挙テ之ヲ賛シ、下院ニアッテハバルフオール氏サー、ハー

コート氏等之ヲ主張シ又一同ノ賛助ヲ得直ニ裁可ヲ仰キ則之ヲ
挙行スルニ至レリ、当時ソールスベリー卿ノ動議ニ曰ク
渠ノ性格渠ノ識能渠ノ挙措及功蹟ニ付テハ特ニ予輩ノ喋々
ヲ要セス單リ我國民ノミナラス世界ヲ挙テ悉知スル所タリ、
苟モ渠ヲ記スルモノ誰レカ之カ報復ヲ圖ラサラン況ンヤ國家
ニ於テヲヤ、斯カル國材ヲ待ツニ其道ヲ以テスル蓋シ我英國
最大ノ義務ナリト」(四)
語簡ニシテ意尽セリト謂ツ可シ
「斯クシテ葬儀ハ廿八日ヲ以テ決行セラレヌ、当日ニ到レハ天明ナラ
サルニ早ク既ニ道途ニ人山ヲ築キス、是皆偉人ヲ送ランカ為

メナリ、当局者ハ豫メ見ルアリ警官ヲ派シテ喧囂雑沓ニ備ヘシモ一
人トシテ之ヲ煩セシモノナク、唯静粛ヲ極メ涙ニ咽ブアルノミナリキ
例刻ニ至ルヤ喪車ハ歩々粛々トシテウエストミンスター大廣堂ヲ出
テウエストミンスター寺ニ迎ヘリ、当日儀伏ノ名誉ヲ得タルイートン
大学生三百七十名先ツ進ミ、上下両院議員之ニ次キ、諸親王ノ御
名代、御連枝、丁抹ノクリスチアン親王コンノート公ケムブリッチ公
皇帝陛下ノ御名代ペムブロック公等又之ニ次キ、更ニ次クニ喪車ヲ
以テセリ、而シテ特ニ大書ス可キハ其棺ノ左右ヲ擁セシ人々ナリキ、則
ガール親王、ヨーク公、サールスベリー卿キンバーレイ卿バルフオール氏
サー、ウイリアム、ハアコート氏ラトランド公ロースベリー卿ランデル

卿ジョージ、アル、メスチード氏等ニシテ、悉ク皇室ノ御連枝若ク
ハ一國ノ宰相貴族ノ冠冕乃至ハ大政党ノ首領タラサルナク、而モ
親王ハ其尊貴ヲ棄テ、宰相ハ其権威ヲ隱シ、政党ノ首領ハ生前
ノ確執ヲ忘レ、共ニ愁然トシテ其別ヲ惜ミ、徒歩粛々車ヲ擁セシ
ニ至リテハ見ルモノ誰レカ之量ノ感ナケン、豈シ所詮渠カ偉勲謙
徳ノ然ラシムル所ナリト雖モ、又英國人ノ社會ニ重ンセラル、所以茲ニ
胚胎セサルナシトセンヤ

之ニ續キテ各國大使公使、遺族近親、親友、秘書、家人僕婢ノ輩
進ミ以テ祭場ニ達セリ、而シテ祭場ノ儀整フヤ讃美歌先ツ起リ、
カンタベリー大僧正ノ祈祷之ニ次キ儀伏兵ノ首領渠ノ功績

ヲ誦スルニ至リテ式ヲ全フセリ、此日式ニ參列スルモノ三千百有餘名
冬會者殆ント三十万人ト注セラレヌレニ

其七、渠ニ関スル各國ノ輿論

之ヲ仔細ニ摘記センカ短紙ノ尽ス所ニアラス、即煩ヲ省キ唯其一
端ヲ示サンニ

米國

「上院議員ロッヂ曰ク、グ氏ノ死ハ世界ヨリ当世紀中ニ於ケル大
模型ノ一ヲ奪ヒシモノナリ、其雄辯ニシテ熱心慧眼ニシテ敏腕ナル多
年世界ノ視聽ヲ布キ敵トスハス味方ト称セス等シク渠ニ敬服セ
シモノ豈尋常一様ノモノナランヤ、渠ニ於テ始メテ之レアルナリ、宜

哉四海ノ渠ヲ悼ムヲ」ト

「ヨンシエヤマン」曰ク、試ニ我米人ニ向ヒ英國中ニ於ケル最モ大ナル政治家最モ高尚ナル道德家最モ偉大ナル愛國家ハ何人ナリヤト問ハヽ、何人モ直ニ答フルニ渠ヲ以ノセン、恐ラクハ世界ノ國民亦再ク答ヘン、予ハ從來個人的渠ト私交ヲ持シ且互ニ音信ヲ屢セリ、渠ハ絶對ニ限ニ純潔名譽ノ人タリシナリ、渠ニ關スル記錄ハ英米人ノ長ク蓄積シテ放タサル所ナラント」(ホ) 而シテ「ヲトリビューン」ハ世界カ偉人中ノ偉人ヲ失ヒシヲ惜ミ且渠ヲクザム及ピットニ比シ其政治的能力ハ優ニ兩者ニ駕スト賞揚シ、(ヘ) 更ニ「伍育ヘラルド」ハ左ノ如ク論セリ

大ナル偉人ノ一ハ今ヤ幽明其境ヲ異ニシテ殘ルハ唯一人ノミ「ビスマルク」公是レナリ、渠若シ逝カンカ既往現在ニ於ケル政治的干係ニ大変更ヲ來スヤ亦グ氏ノ如ケン、曾テ「パルマストン」卿死セシトキカ「ライル」謂ヘルアリ、最終ノ大ナル英人ハ逝キヌト、更ニ大ニシテ且生存セシグ氏今ヤ莫シ英人果シテ如何ノ感カアル

渠ノ偉人タルヲ私議スルハ寧ロ至愚ノミ、其深遠ナル宗教的感念高尚ナル道德的思想寛量ナル政治的態度特ニ英帝國監督ノ天使ヲ以テ自任セシ大度、誰シカ能ク渠ニ企及セン、敵味方共ニ渠ニ服スル所以蓋シ此所ニ在リ、渠ハ生前ニ於テ我米國ノ友ニノラス否寧ロ公敵タリシ、而モ吾人カ其生前ヲ忘レ熱血ヲ濺キテ渠

ヲ悼ミテ禁スル能ハサルハ則又其識能ノ多角的ナルニ出ツ、而シテ今ヤ此人間界ノ國王ヲ再ヒ見ルナシ、嗚呼惜哉」(1)

佛國

「列氏ノ悲報佛國ニ至ルヤ上下等シク之ヲ悼ミ恰モ愛子ノ慈母ニ於ケル別ノ如ク発リキ、フオール氏ノ未亡人ニ対スル打電ハ能ク之ヲ代表スルニ足ル、曰ク

嗚呼列公ハ天稟ノ高遠ナル自由主義ト政治思想トニヨリテ能ク貴國及世界ノ人道ヲ扶掖シタマヘリ、今ヤ其訃音ニ接ス、庶幾クハ貴夫人ト悼痛ヲ與ニセンカ々

而シテ「タム」ハ曰ク、渠ノ死ハ世界ヲ挙テ悲哀ノ声ヲ発セシ

ムルニ餘リアリ、渠ハ自己ノ首領タル党員ノ熱心ナル愛慕者タリシノミナラス反對党ノ尊敬ヲモ維持セシノミナラス、亦國民ノ一般ニ襲敬セシ所ナリ、切言セハ渠ノ名誉ハ全五州ノ國民ヲ挙テ謳歌セシムル所ナリキ、渠カ政治家トシテ範ヲ坤輿ニ垂シ其名声ヲシテ嚇々タラシメシハ職務上特ニ外交上ニ於ケル敏腕ニヨルヘキモ詮シ来レハ渠カ自由ノ大義ト人道ノ開発トヲ以テ任シタルニ帰セスシハアラス云々

更ニ「デバ」ハ、歐洲政治家ノ模範逝キヌト題シ、吾人カ渠ニ對スル悲哀ノ感情ハ主トシテ宗教的ニアリ、而シテ吾人ハ渠ノ死程哀シク感セシモノ未タ曾テアラス渠ハ實ニ吾人々類間ニ於ケル名士家タリシナリト

說キ、筆ヲ進メテ道德家トシテ渠ヲクロヽウエルニトシ國會ニ於ケル
技倆及外交家トシテノ識力等ヨリ渠ヲ賞揚シ、特ニ愛國自治ニ
対スル渠ノ尽瘁ヲ数ヘ此等ハ悉ク歴史家ノ傳フヘキモノナリト論シ、
最後ニ全ク二ノ活動家高尚ナル學術家將宗教家トシテ渠ヲ挙
ケ以テ政治家ノ模範タルヘキヲ唱ヘ、縱令渠ノ生活ハ終ルモ其精神
及遺跡ハ長ヘニ國民ニ銘ス可ク渠亦瞑スルニ足ルヘシト決論シ
又「リバ」ハ渠ノ死ハ單リ英國ノ光輝ヲ剝奪セシノミナラス苟モ政
治家トシテ当代ニ名誉ヲ競フモノヽ魂魄ヲ奪去セシモノト議シ、
「レピユブリク、フランセー」ハ其死ヲ以テ全ク自由及仁義ノ滅セト
論セリ」(チ)

墺國

「其輿論ヲ総括セバ曰ク、伊太利希臘ヲ除キ大陸諸國ニアツテ
ハ我墺國程全ク限ノ悼痛ヲ表スルモノナカルヘシ、思フニ三四十歳
ノ渠ハ辛フシテ墺國ニ知ラレシカ、五十歳ノ頃ニ至リ渠ノ名嘖
々タルニ至レリ、而シテ其知ラレシハ全ク渠カ伊太利事件ニ干渉
セシニアリテ其嘖々タリシハ寧ロ憎悪及嫌忌ヲ以テ嘖々タリ
シナリ、而シテ憎悪ノ極点ニ達セシハ千八百五十九年渠カパル
マストン卿ノ新内閣ニ列セシトキニアリ、然レトモ六十四年シユレス
ウイツクホルスタイン戦爭中ガリバルヂノ倫敦ヲ訪問セシ時渠
カ説クニ墺國トノ親睦ヲ以テセシヨリ、墺國ノ渠ニ対スル感情頓

二変シ爾来渠カビイコンスフイルド卿ノ東方政策ニ反対シ将
バルガリアニ於ケル土耳其ノ暴虐ヲ抑制セシニ至リテ益墺國ノ
同情ヲ惹キ以後昨日ノ勁敵今日ノ親友タルニ至レリ、是レ墺國
ノ渠ヲ悼ム所以ナリト

獨逸

「ナシヨナルザイツング」曰ク、渠ノ家族ノ痛惜皇帝陛下ノ感謝國
民ノ泣咽等打シテ全英國カ哀悼ヲ表スル所以ノモノハ蓋シ渠カ
英國ノ発達ニ於ケル偉大ノ尽瘁ヲ銘記スルニ由ル、渠ノ平和的
態度ハ仮シ反対党ノ云為スルニモセヨ、外交事件ノ纏綿ヨリ英
國ヲ援ヒシヤ疑ヲ容レス、而シテ我獨逸ニ対スル渠ノ挙措如何ト

省ハ渠ハ常ニ毫末ノ友ニアラス特ニ普佛戦争当時ニアツテハ幾
二ノ勁敵タリシナリ、彼鉄血宰相ビスマルクトノ間ニアツテモ亦劣リ劣
レル吾人ハ徒ニ公怨ニ泥ミテ私情ヲ放擲スルモノニアラス、即吾
人ハ茲ニ謹ンテ敬畏スヘキ渠ノ逝ヲ悼ムトスル

伊國

列氏ノ恢復ス可カラサルハ國民ノ豫期セシ所ナリト雖モ、訃音
一度ヒ到ルヤ四境等シク之ヲ悼ミ内閣総理ハ直ニ旨ヲ在英
公使ニ輸シ懇懃ニ其家族ニ悼痛ヲ表セシメタリ、而シテ國民
悲哀ノ声ハ半官報ノヲピニヨンシノ語之ヲ尽セリ曰ク、

伊太利及伊太利國民ハ我不幸多難ノ時ニ熱血ノ援助ヲ藉

シ且其勝利ノ日ニ於テ滿腦ノ同情ヲ寄与セシ盟友ノ死ヲ悼ムト

又「トリビユナレハ、「グラッドストーン」、「グランビル」聯立内閣カ埃及ニ於ケルアラビパシヤ顛覆ニ関シ伊國ヲ誘引セシ当時ヨリ「クリスピー」及渠トノ交情ヲ叙シ、両者會見ノ当時渠カ伊國ノ援助ヲ求ムルハ畢竟伊國ノ為メニ亞弗利加ニ道ヲ開カンカ為メナリ英國若シ欲セハ亞弗利加ニ於テ獨力優ニ之ヲ為スヲ得可シ、云々ノ語ヲ引キ渠カ伊國ノ為メニ尽セシヲ感謝シ、更ニ渠カ伊人ノ感情ヲ惹起セシハ即「ボールボン」家ノ規定ヲ非難セシ有名ナル書状ヲ「アバーディン」ニ与ヘシ時ニ胚胎シ、爾来

其厚情ハ伊人ノ顛沛造次モ忘レサル所ナリト論セリ」(11)

露国

「尊敬ト哀悼トヲ表スルニ於テ露国新聞ハ皆異口同音ニ出テタリ、就中「ニヤーナルドセントピータスバーグ」ハ曰ク、英國ハ今ヤ其大政治家中ノ一人ヲ失ヘリ其永キ生涯及價値アル行為ハ人間ノ記録中塗抹シ難キ跟跡ヲ止メン、況ンヤ其生活ハ政治家トシテ而モ第一流ニ位セシモノニ於テヲヤ、英國ハ斯カル偉人ノ出生ヲ以テ誇ル亦可ナリ、渠ノ名ハ其貴重ナル星宿トシテ自國ヲ大ニシ且人道ニ名誉ヲ与ヘシト共ニ永ク全世界國民中ニ躍如タラン云々」(12)

「又露國高僧バルグリア及セルビア公使將軍イリノフイグナチリフ伯其他知名ノ士数人ヨリ成ルスラボニック協会ハグ氏追悼ノ為メ特ニ五月二十三日ヲ以テ集会シ席上博士ラマレスキー氏ノ渠ニ于スル演説ヲ聞キ最後ニイグナチーフ伯ノ提出ニ係ル哀悼文ヲ議決シ伯ヲ代表者トシテ之ヲグ氏ノ遺嗣ニ送ラシメキ、文ニ曰ク

「スラボニックベネボレントリサイチイ」ハ貴下及貴下ノ家族ニ対シ聞ク世界特ニスラボニック人民ハ公ノ死ヲ悼ミ謹テ哀悼ノ意ヲ致ス可キヲ予ニ命セリ

伯爵 イグナチーフ」(四)

其他各國ノ輿論宛トシテ山ノ如シ然レドモ又煩ヲ避ケテ特ニ省畧セリ

古来英雄終リヲ全フセサルモノ比々皆然リグ氏ノ如キ稀ナリ氏タルモノ又瞑シテ可ナラスヤ

摘要書目

(イ) 五月二十日タイムス

(ロ) 五月十九日二十日二十一日ヘラルド及九十七年ステーツマンスイヤーブック

(ハ) 五月二十一日タイムス

(ニ) 同 二十九日スタンダード

(ホ) 五月二十一日タイムス

(ヘ) 五月二十日同上

(ト) 五月十九日ヘラルド

(リ) 同　同　二十一日仝上

(ヌ) 五月二十一日仝上

(ル) 五月二十五日仝上